

みやにち 防災特集

見直そう備え



東日本大震災が発生した2011年3月11日にちなみ、毎月11日に防災を考えます

防災士 ネットワーク便り

災害時の避難などで周囲のサポートが必要な人たちは「要配慮者」と言います。高齢者や障害者、乳幼児のほか、外国人らは一人で逃げるのが難しかったり、言葉が分からなかったり、さまざまな壁があります。避難に時間を要するため、自然災害の危険性が高まった際には市町村か

日南支部 中尾徳彦さん(58)

寄稿 「要配慮者の避難」

ら発令される避難情報に注意が必要です。早期避難を分かりやすく伝えるため、2016年末に名称が「避難準備・高齢者等避難開始」に変わりました。発令された場合、高齢者や障害者らは避難を始める合図になります。

私たちの心には、ある限界までの異常を「正常の範囲内」として処理する働きがあります。「正常性バイアス」と呼ばれ、災害時は逃げ遅れの原因につながります。その



日南高が昨年行った幼稚園児や高齢者らとの避難訓練。「要配慮者」をサポートすることで被害は軽減できる

情報に注意し早めに

を心掛けましょう。

また、東日本大震災に遭った宮城県の語り部・阿部寛行さんは、高齢者が避難する大切さを伝えられています。「高齢者が減らす」のではなく、一人一人が自ら率先して速やかに避難行動を取って被害軽減につなげましょう。

りの人生を考え、逃げなくていいと思うことは、救助に向かう人たちの命を危険にさらしてしまつ。その怖さを、平時から伝え続けることが一番の減災になる」という言葉は重みがあります。

他人を助けたという気持ちで働く「愛他行動」は、自分の命を差し置いてでも助けようとする行動です。過去の災害では避難を拒否したり、逃げ遅れたりした人を助けに来た人が命を落としたことがあります。一人一人